

愛知縣勸業雜誌

自十七号
至十九号

14.1イ-23



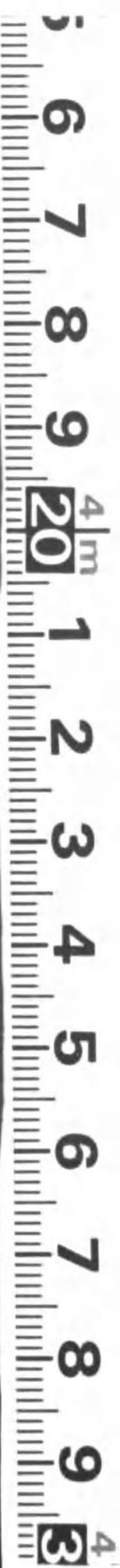
1200701598095

14.1イ

23

館書圖京東

二	一			
三	四			
冊	號	架	函	類門



始





愛知縣勸業雜誌

明治二十三年六月發兌

(不費)



第十七號

農商課編纂

誤

目次一頁四行目ノ次二行ヲ脱ス
 全二頁五行目ノ次ノ二行ヲ誤植ス
 一頁三行目傳習生徒
 七頁六行目綿ノ下不明
 八頁十一行目東加茂
 九頁五行目早不知
 全六行目東加茂
 十頁六行目甘蔗
 全十行目ニ八名ノ二字ヲ誤植ス
 十三頁四行目西春日井西春日井
 全七行目西春日井
 全七行目以下三行下欄不明
 十四頁十二行目可
 十六頁一頁目朱記不明
 全五行目計五七
 三十八頁十三行目成績
 四十五頁九行目五三二〇、〇〇
 全十行目二、二五〇、〇〇
 四十六頁十行目一、四九三、四〇
 四十七頁二行目九九、七六

正

氣象 愛知縣管内ノ同温線
 氣象 愛知縣管内ノ同温線 二行ヲ削
 傳習場生徒
 綿 アツア
 フンド
 西加茂
 早不知
 西加茂
 甘蔗
 八名ノ二字ヲ削
 東春日井西春日井
 東春日井
 結果未ク詳ナラス
 全全
 可ナリ
 愛知 葉栗 中島 八名 寶飯
 五六
 成績
 四五、三二〇、〇〇
 一、二五〇、〇〇
 四九三、四〇
 九五、七六

農事

試作ノ件
 桑園ノ件
 養蠶傳習場ノ件
 段戸種畜場ノ件
 馬耕ノ件
 馬耕傳習景况
 獸醫養所ノ件
 獸醫牛馬對照ノ件

愛知縣勸業雜誌第十七號

目次

令達

養蠶傳習生徒募集ノ件

農事

試作ノ件

桑園ノ件

養蠶傳習場ノ件

段戸種畜場ノ件

馬耕ノ件

馬耕傳習景况

獸醫養所ノ件

獸醫牛馬對照ノ件

獸醫養成所生徒卒業証授與式演說書
共進會及品評會成績

蠶絲業景況

蠶種檢査成績

力農褒賞ノ件

氣象

愛知縣管内ノ同温線

統計

蠶絲業組合人員及桑園反別表

春蠶種掃立數及繭産額價額調表

夏繭産額價額調表

秋繭産額價額調表

愛知縣勸業雜誌第十七號

○告示号外

各郡

本縣養蚕傳習生徒百名ヲ限リ募集ス志願ノモノハ明治廿一年(三)月縣令号外養蚕傳習場規則ニヨリ來ル四月十日マテニ出願スヘ

明治廿三年三月十七日

愛知縣知事白根專一

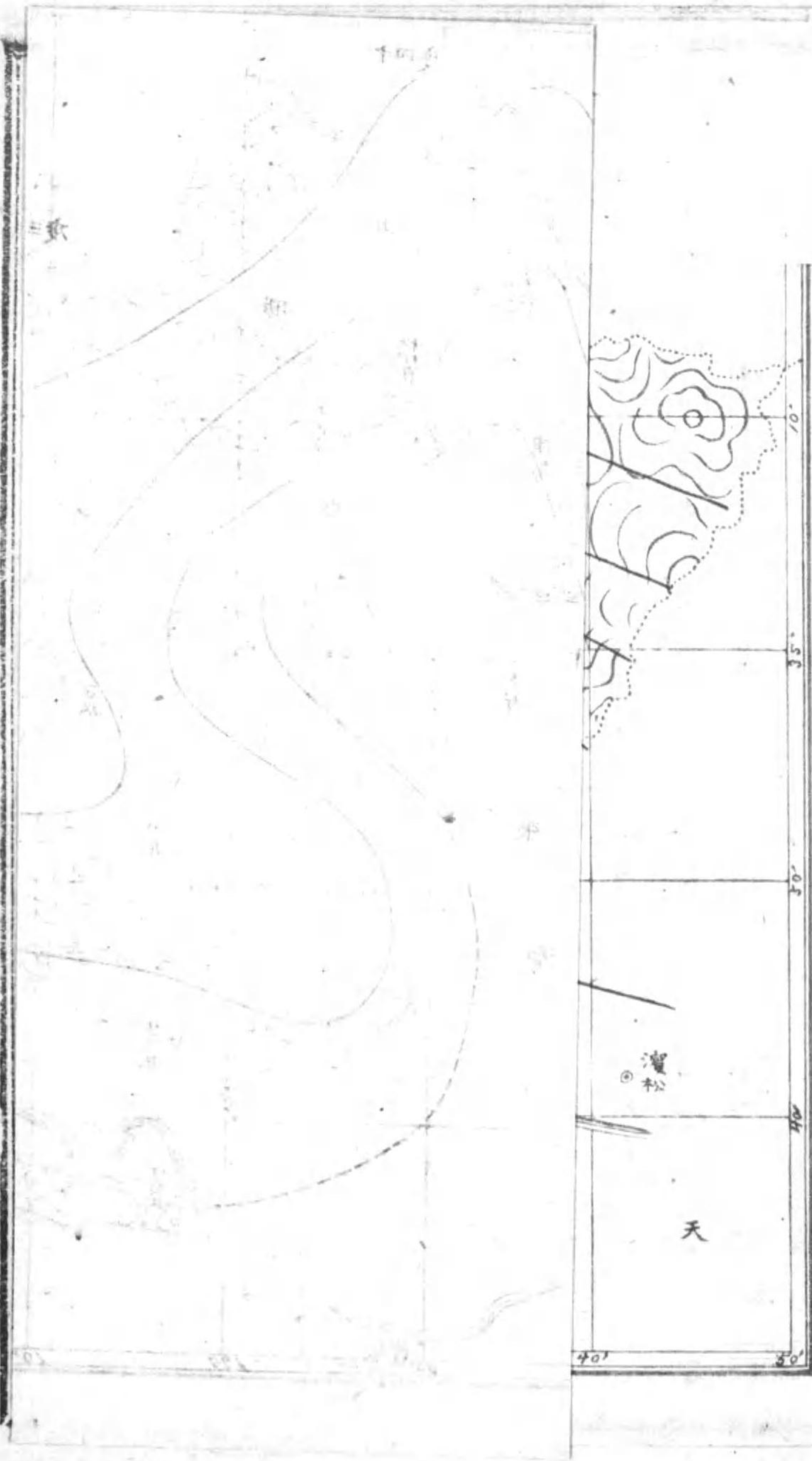
○愛知縣管内ノ同温線

農高課員石川正美

茲ニ掲ケル圖ハ尾張三河ノ二州ニ於ケル温度配布ノ有様ヲ示ス所
ノ同温線圖ニシテ管内二十一ヶノ觀測所ト津、岐阜、濱松ノ三測候所
トカ毎日觀測セシ午前十時ノ平均温度ニ據テ之ヲ描ケリ夫レ土地
ノ暖冷ハ人類生活ノ上ニ密接ノ關係ヲ有スル貴重ノ無形物ニシテ
此ノ無形物ノ多寡如何ヲ明ニスルハ則チ吾福利ノ根源ヲ明カニス

ルヲタルヲ知ラサルベカラス之ヲ明ニスルハ一ニ氣象學ノ助ケニ
籍レリ今ヤ尾三ノ地上ニ斯ノ如キ線條ノ描カレ得ルニ至リシハ實
ニ氣象事業ノ吾人ニ與フル賜ニシテ又實ニ之ヲ以テ濫觴トナス
又手各地ノ氣候ハ天然ノ地勢ニ從ヒ四季素ヨリ不同アリテ此ノ曲
線ノ位置ヲ變動セシムト雖也其地カ(二十二年午前十時ニ於テ)全一
年ニ享ケシ温熱ノ積量ヨリ見ルハ本圖ノ如ク尾張ハ平野ニシテ
且ツ海水ノ深ク穿入スルカ故ニ温線ハ頗ル北ニ灣折スレド三河ハ
殆ント全ク之ニ反シ尾張ヨリ凡ソ緯度十二分赤道ニ偏ルニ拘ハラ
ズ温線南張シテ東部ニ厓カ北進セルノミ是レ山岳重疊ナル地勢ノ
然ラシムル所ニシテ概言スレハ此ノ温線ノ態勢ノ方向ハ多少ノ屈
曲ヲ以テ北西ヨリ南東ヘ斜ニ行ケリ乃チ此ノ温線ノ屈曲ト廣狹ト
ハ直ニ各地暖冷ノ異同ヲ表示スルモノナリ
本圖ノ各線ヲ見ルニ十六度線ハ勢州津ノ東ヲ北向シテ桑名ノ北ヲ

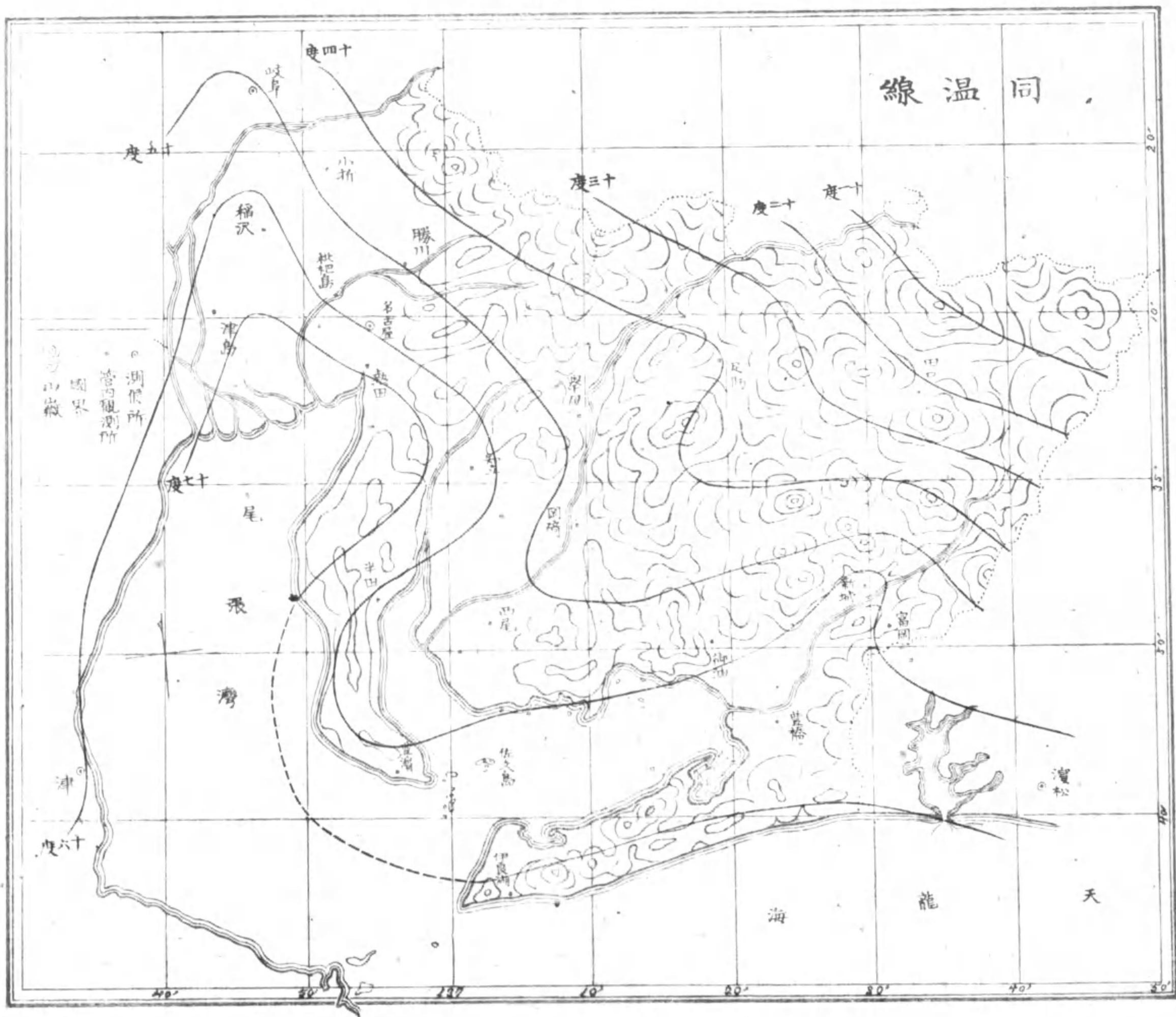
過キ幾ント尾ノ木曾東岸ヲ廻リ中島郡一ノ宮近傍ニ至リ更ニ南東
ニ折レ枇杷島、名古屋ヲ經テ知立ノ東南ヲ繞リ半田ノ西ヨリ知多半
島ノ南部ヲ迂廻シテ衣ヶ浦ヲ渡リ三河灣ノ北岸ニ沿ヒ本宮山麓ヲ
新城ニマデ直走シテ又南曲シ富岡ノ西、遠州濱名湖ノ北ヲ通シ濱松
ノ北方ヲ東ニ去ルモノ是ナリ十五度線ハ濃洲岐阜ノ西北ヨリ小折
ノ西、勝川ノ東ヲ過キ猿投山南ヲ歷テ岡崎ノ西南ヲ遠ク廻リ本宮
山脈ノ背後ニ沿フテ遠洲ニ入レリ十四度線ハ犬山近傍ヨリ尾濃國
界ノ山前ニ沿ヒ瀬戸、猿投ノ邊ヲ横ギリ足助ノ北東ニ達シ爰ニ八ヶ
嶽ノ峻嶺ヲ避ケ寶祿山、巴山ノ間ヲ經テ鳳來山ノ東ニ去レリ十三度
線ニ三河西加茂郡ノ北部ヨリ伊勢神峠、段戸山ノ西南ニ沿フテ粗ホ
南北設樂ノ郡界ヲ東ニ走レリ十二度線ハ段戸山ノ北方即チ納庫ノ
溪流ヲ這ヒ降草部落ヲ經ルモノニシテ十一度線ハ北設樂郡ノ北部
ヲ通過スルモノナリ而シテ十七度線ハ大約尾三ノ海岸ニ近付シテ熱



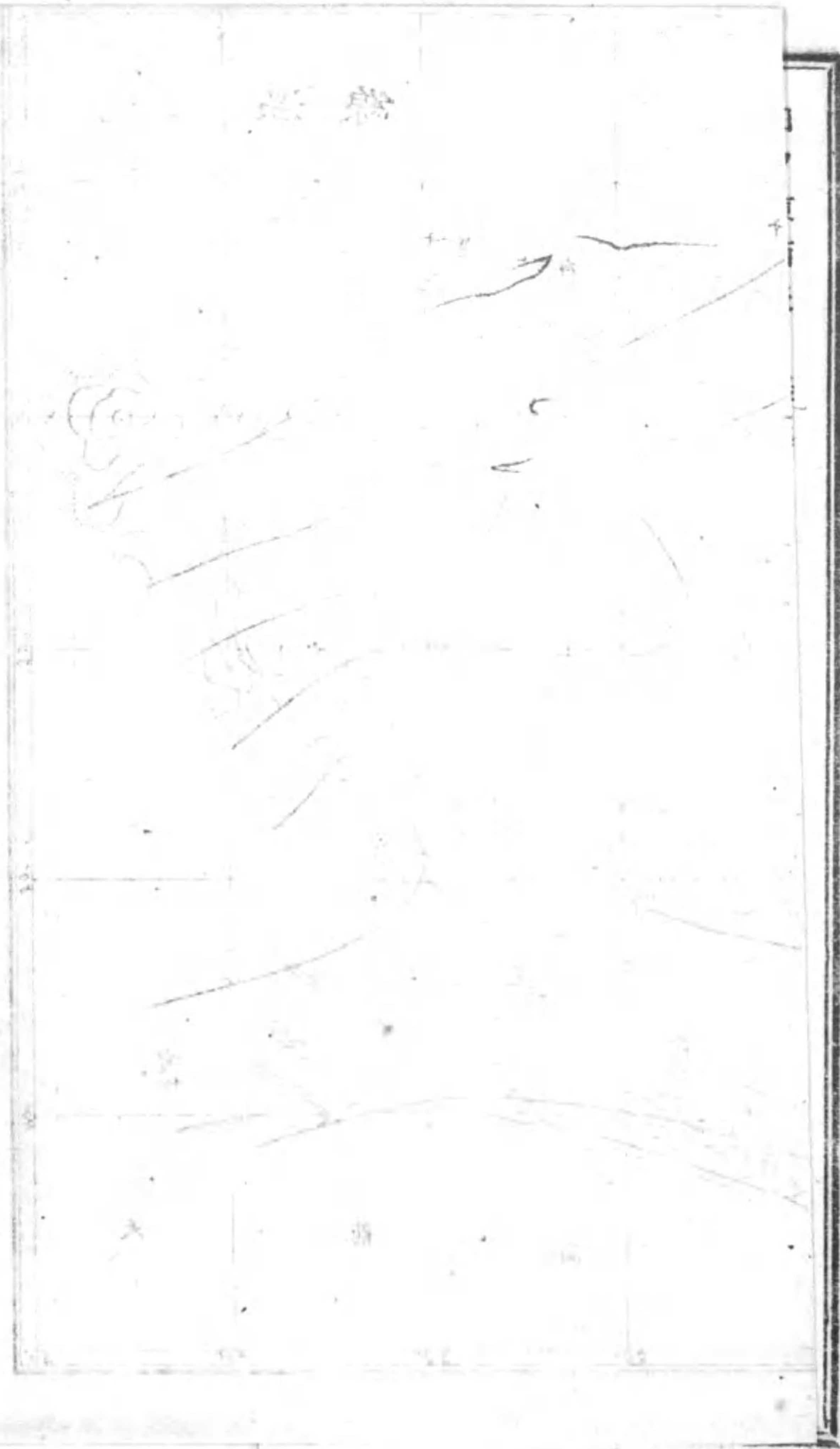
田ノ東西及ビ渥美ノ半島ヲ占有ス然レハ十八度ノ温線ハ尾張灣内
 ト三河外海トヨアルベシ
 以上ノ十一度乃至十三度ノ三線ハ全ク三河ニ属シ十四度乃至十七
 度ノ四線ハ尾三ニ涉レリ故ニ温度ノ差ハ尾張ニ少クシテ四度三河
 ニ多クシテ七度ナリトス其配布ノ實況ハ宜ク本圖ニ就テ見ラルベ

氣象圖

愛知縣管内



Vertical text on the right side of the page, likely a legend or descriptive notes for the map. The text is written in traditional Chinese characters and is partially obscured by the binding of the book.



○試作

農業植物ノ試作ヲ創始セシハ明治十三年ニシテ爾來有益ト認メタ
 ル種苗ヲ產地ヨリ取寄セ各郡ニ分付シ其人ヲ撰テ之レヲ試作セシ
 メタリ而シテ右試作入チ二種ニ分チ甲ハ畝歩ヲ定メ周到ニ試作チ
 爲サシメ若シ損耗ヲ生セシハ之レヲ償ヒ乙ハ只種苗ヲ與ヘ損耗
 ハ償却セスト雖モ甲乙共ニ試作表ヲ付シ其結果ヲ報道セシメタリ
 抑試作ノコトタル土質寒暖ノ差異アルト試作人ノ得手不得手信不信
 アルトニ依リ一ツコ之レカ適否ヲ定ムルコト難キノミナラス或ハ其
 種類ニヨリ一年二年ヲ要スルアリ果樹ノ如キハ數年ヲ要セサレハ
 結果ヲ見ルコト能ハサルモノアリ故ニ結果未定ノモノモ亦少ナシト
 セズ茲ニ別表ヲ掲クル所ノモノハ試作人ヨリ徹シタル報告書ニ據
 ルモノニシテ其結果ノ適否ヲシテ識別シ易カラシメシカ爲メ表中
 適チ墨書シ否チ朱書シ結果ノ概要ヲ示ス墨書ノ内好適ノ種類ニシ

テ現ニ廣ク傳播繁殖シタルモノ少ナカラス是レ偏ニ試作ノ功ト云フベキノミ

明治十四年試作調

種	類	産地	適地	適	否
小麥	ナベゴシ	米	國	適	否
全	ソノラ	全	知多 中島 幡豆 額田	質上等	多収
全	矮生	全	知多 幡豆 東加茂 渥美	全	
全	クラフ	全	知多 幡豆 西加茂 渥美	全	
全	最上	全	碧海 西加茂	全	
稻	薩摩中田	神奈川縣	西加茂	質中等	多収
全	晚稻	兵庫縣	西加茂	全	
全	千本中稻	静岡縣	全	全	

全	中稻錦	三重縣	西加茂	質中ノ上	多収
全	權八	兵庫縣	西加茂		
全	晚長幅	三重縣	西加茂		
全	中稻千本	全	全		
赤	甘藷	鹿兒島縣	額田	美味	多収
綿	ラソドフ	米	額田 渥美	織緯細長良質多収 作法ヲ改良セハ見込アリ	
全	赤木	大坂府	愛知 中島 知多	多収	
全	青木	全	知多 碧海	全	
全	小朝鮮	全	額田 西加茂 渥美	全	
全	青木	廣島縣	額田 渥美 幡豆	全	
全	小朝鮮	全	中島 渥美 碧海		
全	大朝鮮	全	額田 渥美	多収	
全	眞岡	栲木縣	額田	全	

全吉助早稻	鳥取縣	西加茂北設樂西春日井 海東碧海幡豆八名渥美	質上等	少收
全池田撰出	愛媛縣	東春日井西春日井額田東海	質中等	多收
ホドヨ	全	額田	質上ノ中	收穫普通
蘿	本	西加茂	多收	
稻地	神愛媛	額田		
甘	酒清	丹羽		
綿	清七廣島	東春日井幡豆額田		
全	前編	深美額田		
綿	大坂府	八名	多收	
全田邊土佐	全	額田八名	全	
麻	枋木縣	額田八名	稍々可ナリ	見込ア
稻晚山田穗	兵庫縣	東春日井丹羽葉栗中島 知多幡豆額田	質中等	粒大多收

全神力稻	全	西加茂東加茂北設樂寶飯	全	
全今出稻	滋賀縣	西春日井知多 東春日井愛知丹羽	質中等	
全ヤツ山稻	全	碧海幡豆額田西加茂東加茂	質中等	多收
全小林穗	大坂府	中島海西知多碧海	全	
全コボレ	西春日井郡	幡豆渥美八名	全	
全相生	德島縣	愛知西春日井丹羽葉栗 中島東春日井	質中ノ上	多收
全	岐阜縣	東春日井海東知多西加茂	質中等	收穫多量
全小	滋賀縣	寶飯渥美八名	全	
糯	中島郡	碧海幡豆北設樂寶飯	質中等	多收
陰	島取縣	北設樂東加茂南設樂	質中等	收穫普通
晚大麥	愛知郡	東春日井丹羽葉栗海東 海西中島	質中等	多收
白大麥	全	碧海幡豆額田	全	
裸麥ドシヨウ	全	丹羽葉栗東西春日井 海東海西中島	全	

今	八島	植物園	知多	全
全	信濃	全	東加茂北設樂南設樂八名	全
栗	丹羽郡善師野村	東加茂北設樂南設樂八名	全	全
雁	皮 原產地 鹿兒島 植物園ニテ仕立苗	知多碧海額田西加茂北設樂南設樂實飯八名	全	全
明治二十年試作調				
鳴州	密柑	原産兵庫縣補物園仕立苗	海東 海西 知多 幡豆	結果未詳ナリ
夏	橙	山口縣原産熊本縣原産植物園仕立苗	全	全
櫻	桃	植物園仕立苗	西春日井丹羽 葉栗 海東	全
冰密	桃	全	全	美味多収
馬鈴	薯	米國産三田育種場	愛知 中島 海東西 幡豆 額田 東加茂 南設樂	良質多収
稻	早權八	愛媛縣	愛知 海東 額田 東加茂 實飯 中島 幡豆 南設樂	質美少収
早	稻	兵庫縣	愛知 海東 額田 東加茂 實飯 中島 幡豆 南設樂	質上等収可

全	万作	種福岡縣	中島 海東 東加茂 實飯	質美多収
全	白石坊主	廣島縣	愛知 海東 額田 東加茂 幡豆	質美少収
全	丹波	全	愛知 幡豆 東加茂	全
全	坂本	廣島縣	愛知 額田 東加茂 幡豆 南設樂 實飯	全
全	全	全	愛知	質美收穫普通
全	白山	全	實飯	質美收穫可ナリ
全	關取	三重縣	愛知 實飯	質美多収
全	新志太	靜岡縣	海東 幡豆 額田	質中等多収
粟	晚熊本縣	海東 幡豆 額田 東加茂 南設樂 實飯 中島 海西	多収	多収
油	菜	海西 知多 碧海 中島 海東	質美多収	質美多収
黃	芥	植物園	丹羽 葉栗 中島 海東西 知多 幡豆 額田 東加茂 實飯 八名	質美多収

大 麥 洋 種
 西春日井 丹羽 海東 知多 碧海
 幡豆 頼田 東西加茂 南設樂
 質美多收 稍々風土ニ慣ル

明治二十一年試作調

小 麥 エリツソン ハルビユ	原 産 獨 國 植 物 園	愛知 丹羽 粟栗 南設樂 海東 西 西加茂 渥美 八名 東西春日井 實飯 中島 知多 東 西春日井 頼田 東加茂 北設樂 西 西春日井 丹羽 粟栗 中島 八名 海東 西碧海 頼田 西加茂 實飯 渥美 愛知 知多 幡豆 南設樂	質美 多收
稻 今長者	福 岡 縣	愛知 東西春日井 丹羽 粟栗 海東 西碧海 頼田 西加茂 實飯 渥美 愛知 知多 幡豆 南設樂	質美 似大多收
全 滿願寺	熊 本 縣	愛知 東西春日井 丹羽 粟栗 海東 西碧海 頼田 西加茂 實飯 渥美 愛知 知多 幡豆 南設樂	質上等多收
全 高津粉	山 口 縣	知多 幡豆	普 通
全 白 山 廣 島 縣	西春日井 丹羽 粟栗 中島 海東 西 西北設樂 西加茂 東加茂	知多 幡豆	質上等多收
稻 石 白 石 川 縣	碧 海	西春日井 丹羽 粟栗 碧海 西加茂 渥美 愛知 東春日井 中島 南設樂 海東 西 知多 頼田 山 八名 實飯 幡豆	質中等收 穫多量
全 都 稻 山 口 縣	愛 知 碧 海		普 通
全 アダレ 岡 山 縣	愛 知 碧 海		普 通
全 國 玉 山 口 縣	愛 知		普 通
全 豐前坊主 福 岡 縣	八 名		普 通
全 天狗米 岡 山 縣	八 名		普 通
全 麥 八 熊 本 縣	愛知 東西春日井 丹羽 粟栗 中島 知多 幡豆 頼田 碧海		質上等收 穫稍々可ナリ
合 計 百二十七種	内 不適當モノ十七種 未タ其結果ヲ詳ニセサルモノト種		

右ハ明治十四年ヨリ廿一年マテ八ケ年試作ノ結果ナリ
 ○桑 園
 本園ハ明治十年ノ創設ニシテ其設立ノ主旨タル當時蠶業未ダ盛ナ
 ラス之レカ擴張ヲ謀ラントスルニハ先ツ其原料タル桑樹ノ種類ヲ
 撰ヒ栽培ノ法ヲ講究セサルニカカラサルヲ以テ縣下ノ模範ト爲リ良

苗ヲ分クント欲シ各地ヨリ良苗ヲ取寄セ周到ノ培養ヲ爲シ桑葉ハ以テ養蠶傳習場ノ養桑ニ充テ採取ノ桑苗ハ以テ人民ノ請求ニ應シ傳習場ノ養桑ニ充テ然レモ有限ノ桑苗一般人民ノ請求ニ應スルコト能ハスト雖モ幾分カ奸商輩ノ術中ニ陥リ不良ノ桑苗ヲ購入シ非常ノ損害ヲ蒙ラントスルモノヲ防遏シ且本園拂下ノ桑苗ハ何レモ善良ノ桑園ト爲シ隨テ養蠶上ニ益ヲ與ヘタル少ナシトセズ現今栽植スル所ノ種類ハ市平、十文字、高助、鼠返シ等廿三種ナリ又當初ヨリ十二年マテニ拂下タル苗數ハ二十一萬三千九百四本十七年ヨリ廿二年マテニ拂下タル葉桑ノ量ハ四千四百九十二貫三百五十目ナリ

○養蠶傳習場

養蠶傳習、ハ明治十年ニ創始シ教師ヲ上州ヨリ傭聘シ天然育チ傳習セリ爾后年々繼續シテ生徒ヲ養成シ又生徒ヲ撰テ上州及奥州ニ派遣シ實地ニ就キ飼育ノ方法並桑園ノ栽培法等親シク之レヲ學ハシメタリ然ルニ十四年ニ至リ該傳習費等ノ廢按ニ歸シタルヲ以テ養蠶場ニ桑園ヲ併セ有志者祖父江源次郎ニ貸渡シ生徒ヲ募リ養蠶製糸ヲ傳習セシメタリシカ是亦十五十六兩年ニシテ廢シタルヲ以テ終ニ該場ヲ賣却シタリ依テ十七年ヨリ廿年ニ至ル四年間ハ全ク傳習ヲ中止シタリシカ漸々蠶業ノ盛ナルニ從ヒ愈々改良ノ必要ヲ感シ廿一年度ニ於テ更ニ目下ノ傳習場ヲ設立スルニ至レリ而シテ十年創始以來昨廿二年マテ傳習ヲ受ケタル生徒ノ數ハ別表ニ掲ケタルカ如ク四百餘名ノ多キニ及ヒ是等多數ノ卒業生ハ各地改良ノ卒先者ニシテ終ニ今日該業ノ隆盛ヲ致シタリト云フヘシ又廿一年更ニ傳習場ノ設立アルヤ一層該業者ノ氣勢ヲ發起シ資飯知多ノ如キハ奮然郡費ヲ以テ傳習場ヲ開クニ至レリ抑養蠶傳習場ノ功タルヤ只ニ多數ノ生徒ヲ養成スルニ止マラス卒業ノ上ハ各自歸家シテ適切ノ養蠶ヲナシ其地方不完全ナル養蠶家ノ模範トナリ將ニ延テ一

般改良ノ基礎トナラントス現ニ卒業生徒カ昨年ニ於テ飼育好結果ヲ得タルガ如キハ其實跡ナリ又傳習場製造ノ蠶種タル精撰無毒ニシテ何レモ結果ノ良好ナリヲ以テ廿二年ノ如キ拂下ヲ希望スルモノ非常ニ増加ヲ來シタリ是レ該場設置ノ必要ナル所以ニシテ其功モ亦偉大ナリト云フヘシ

養蠶傳習人員表

年度	傳習場生徒	上奥二州派遣生徒	北設樂郡傳習生徒	實飯郡傳習生徒	有志者設立中傳習生徒	計
十	一一八					一一八
十一	四二			二二		六四
十二	五〇		六			五七
十三	四〇		三		四〇	八三
十四	三七					三七

十五					一五	一五
十六					一五	一五
廿一	九一					九一
廿二	六九					六九
合計	三四一	九	二二	四〇	三〇	四四二

○段戸種蓄場

縣下產馬ノ景況ハ年々產出馬匹モ増加シ種類モ改良ノ功ヲ見ルニ至レリ已ニ廿一年ニ於テハ分統仔馬數南北設樂東加茂三郡ニテ千六百九十二頭(内雜種百二頭)廿二年ニ於テハ三郡ニテ二千五頭ニシテ二百四十四頭ノ著シキ増加ヲ致セリ畢竟始メヨリ地方稅ノ補助其他恩貸金等ニ依リ漸ク維持シテ今日ニ至リ大ニ其好結果ヲ見ルヲ得タリ尙ホ將來ニ於テハ一層改良ヲ加ヘ是迄當歲ニテ賣却ス

ルノ慣習ヲ破リ仔馬育成所ヲ設立スルノ計畫モアリ且馬籍ノ必要
ヲ唱フルニ至レリ今日ノ景況ニテハ最早獨立ノ經濟ヲ確立セント
シ本年春期産馬會開設準備中ナリ是レ皆補助金等ノ好果ヲ能ク結
ヒタルモト云フヘシ

○馬耕

去ル十八年中教師ヲ熊本縣ヨリ雇聘シ賓飯額田ノ二郡ニ派遣シタ
リ是レ本縣馬耕傳習ノ始ニシテ爾來各郡ヨリ希望者ヲ現出シ知多
碧海東春日井南設樂八名ノ數郡ニ輪環派遣シ又廿二年ニハ愛知海
東海西加茂ノ四ヶ所へ派遣シタリ此間生徒ノ習熟セシモノ五百
八十四人現ニ今日教師トシテ派遣シタル四人ノ内二八ハ東春日井
郡額田郡ノ習熟生ナリ而シテ目下馬耕ノ景況ヲ觀察スルニ何レモ
便益ヲ知ルニ從ヒ盛況ヲ加へ就中東春日井郡ノ如キハ頗ル熱心ニ
シテ習熟者モ亦多シ是等ノ習熟者一ノ組合ヲ設ケ他ノ請求ニ應シ

該耕ヲ以テ賃耕スルモノアリ又現今生徒ノ最多數ナリハ八名南設
樂西加茂ノ三郡ニシテ何レモ傳習中ナリ又西春日井郡ニテハ近頃
頻リニ該耕ヲ望ミ吉村巡回教師ニ就キ傳習ヲ請ヒ幡豆郡ニ於テハ
馬耕牛耕ノ競争スルアリ北設樂郡ハ先キニ賓飯郡ニテ傳習中四五
人ノ生徒ヲ出シ習熟歸郡ノ上逐々該耕ヲ開發シ東加茂郡ニテハ西
春日井郡ト同シク昨年吉村教師ヨリ傳習ヲ受ケ丹羽郡ニテハ東春
日井郡本縣馬耕世話掛堀尾丑之助ノ傳習スルアル等管内該耕ノ開
發スルト共ニ冀望ヲ増加シ地方ニ依リテハ牛耕ノ益アルヲ唱フ
ルニ至レリ是レ偏ニ馬耕ノ實益ノアルヲ覺知シ此ニ至リシモノ
ナリトス

○馬耕傳習景況

廿二年中馬耕教師ヲ派遣シタルハ愛知海東海西加茂ノ四郡ニ
前年ヨリ引繼キ派遣ヲ爲シタルハ南設樂八名ノ兩郡ナリ而シテ同

年七月以前各部ニ於テ卒業セタル生徒ノ數ハ東春日井郡ニテ三十六名知多郡ニテ十九名碧海郡廿五名八名郡五十五名南設樂郡十二名ナリ又同年十二月現在生徒ノ惣數ハ三百四十一名ニシテ内愛知郡ニテ十五名海東海西郡十三名西加茂郡五十二名南設樂郡六十名八名郡ニテハ二百一名ニシテ該耕ハ實ニ勞力ヲ助ケ農業家必用ノ機械的ナルヲ周知シ年一年進歩ノ景況ナリ

○獸醫養成所

本所ハ明治廿年ノ創設ニシテ專ラ獸醫ノ速成ヲ目的トシ廿一年度末即チ廿二年三月ニ於テ八名ノ卒業生ヲ出シ現今在學生徒ハ十一名ナリ而シテ本所卒業生八名ノ中五名ハ已ニ開業試験ニ及第シ開業免狀ヲ受領シタルヲ以テ現ニ該業ニ從事セリ抑モ縣下獸醫ニ乏シシ爲メニ從來伯樂馬醫ノ輩ニシテ仮開業獸醫ト爲リ專ラ家畜ノ治療ニ從事スト雖モ本所卒業生ノ出ツルニ從ヒ營業上自然ノ補綴

ヲ受ケ恬トシテ仮開業ニ安スルニ能ハス獸醫學ノ必要ヲ感ゼシモノ少ナカラス又從前病畜ノ等閑ニ付シ來リシモノモ本所設置以來治療ヲ乞フモノ年々増加シタルハ以テ牧畜家ノ進歩シタルヲ徵スルニ足ルヘシ

○獸醫牛馬ノ對照

明治廿二年十二月中管内開業獸醫ノ總員ト之レニ對スル牛馬ノ頭數トナ比較スレハ獸醫壹人ニ付牛馬ノ頭數平均六百廿六頭六分余ニ當レリ又各郡市内獸醫ノ數及牛馬ノ頭數ヲ區別スレハ左表ノ如シ

愛知	郡市名		計	馬數	牛數	計	開業獸醫一人ニ對スル牛馬數
	名古屋	獸醫					
一〇人	一〇人	一〇人	一〇人	三三頭	二五四頭	二八六頭	二八六頭
一	一	一	一	一六二	一	一六三	一六三

辨知スルモノ少ナク隨テ當所ノ光彩ヲ發揮スルノ機會ナシ是レ
常ニ余等ノ遺憾トスル所ニシテ這回此文ヲ登錄スル所以ナリ讀
者幸ニ諒焉

愛知縣獸醫養成所教師熊井駒之助識

生徒諸氏ヨ諸氏ハ己ニ當所規定ノ學科ヲ完了セラレ余ヲシテ此盛
典ヲ舉クルノ榮ヲ得セシノナリ是ニ於テカ余ハ聊カ將來諸氏ガ取
ルヘキ方針ヲ摘示シ且其責任ヲ表明シテ以テ諸氏ノ注意ヲ喚起セ
ント欲ス

抑モ泰西ノ制度文物愈々東漸シ我邦隨テ文明ノ針路ニ向ヒ百科ノ
學皆能ク進步改良ノ氣運ニアリト雖ヒ熟々世事人情ノ向背ヲ觀察
スルニ殊ニ無形ノ科學ハ驥足ヲ伸ハシテ駿馬甯ナラサルノ運動ヲ
ナスモ特トリ有形ノ實學ニ至テハ常ニ逡巡躊躇スルカ如キノ形跡
アリ就中我獸醫學ノ如キ泰西ニ在テハ純然科學ノ位置ヲ占メ此レ

ニ從事スル學者亦其聲譽ヲ博スルノ機會ニ乏シカラズト雖モ我邦
ノ通弊トシテ從來牛馬ヲ見ルト毫毛ヨリモ輕ク隨テ之レニ關係ス
ルモノモ亦他人ノ輕侮ヲ蒙ムリ太シキハ畜生視セラレ而カモ此尙
ニ當ルモノ恬トシテ顧ミザルナリ蓋シ從來馬醫ト云ヒ博勞ト稱ス
ル者今ヤ轉シテ獸醫ノ名稱ヲ冒シ人之ヲ許シ已レ亦獸醫タリト揚
言スレト畢竟是等ノ輩ハ獸醫本領ノ一小部分ニ離脱タルモノニシ
テ其講スル所實ニ淺薄其爲ス所其行フ所實ニ賤劣卑屈以テ世信ヲ
墮落セシハ是非モナキ次第ナレト現ニ博識有爲ノ獸醫モ亦此影響
ヲ蒙ムルニ至テハ豈慨嘆セサルヲ得ヤ嗚呼家畜司命ノ任ニ當ル
モノ則チ獸醫タルモノ斯ノ如キ卑劣ノ地位ニ甘ンフヘキヤ否ヤ決
シテ然ルヘカラザルナリ夫レ獸醫學ハ純然科學ノ一タリ之ヲ學ビ
之ヲ究ムルノ方法宜シキヲ得ハ國家ヲ益シ自他公衆ニ大利アル決
シテ疑ヲ容レザルナリ何トナレハ獸醫ハ牧畜事業ノ藩垣ニシテ牧

蓄事業ハ農事ノ一大分派タレバナリ然リ而シテ固ト牧蓄事業ト獸
 醫トハ主客唇齒ノ關係ナレハ牧蓄事業起テ後獸醫ノ必要ヲ生ズル
 ハ理勢ノ當サニ然ルヘキ所我邦古來牧蓄ニ乏シ隨テ獸醫學ノ發達
 ナ見サル又恠ムニ足ラサルナリ然レモ余ヲ以テ之ヲ觀ルニ當今獸
 醫輩ハ此學ノ振興ヲ謀ルニ啻ニ被勸的ノ恩澤ニ賴ラズシテ充分自
 働的ノ作力ヲ逞フスルヲ期セサルヘカラズ夫レ被勸ト云ヒ自働ト
 云フ抑々何ソツヤ他ナシ被勸的ノ恩澤トハ世人漸ク牧蓄事業ヲ起
 シ其旺盛ヲ待テ其餘澤ヲ享ケテ以テ己レガ地位ヲ得ルヲ云ヒ自働
 的ノ作力トハ自ラ進ンテ牧蓄事業ヲ企テ其模範ヲ作り他人ヲ誘導
 シテ益々此業ノ振起ヲ謀リ隨テ自他獸醫者ノ必要ヲ喚起スル是レ
 ナリ夫レ然リ果シテ獸醫ノ必要ヲ喚起シ多々益々獸醫ニ熱心從事
 スルノ輩續出スルニ至レハ此學ノ振起否國家ノ隆盛期ニテ俟ツヘ
 キナリ何ヲ以テカ之レヲ謂フ請フ左ニ之レヲ論セン

夫レ牧蓄事業ハ我邦農家ノ短所タリ殊ニ我縣ノ如キ此点ニ於テハ
 他縣ニ比シテ寧ロ下劣ニ位セリト云フヘシ然レモ事勢ノ赴ク所將
 來牧蓄ニ由ラザレハ農家致富ノ道ナク農家果シテ致富ノ道ナカラ
 ノカ富國強兵將ク何レニ由テ之レヲ求メントスル乎思フテ之ニ至
 レハ牧蓄事業ノ國家經世ニ大關係アル知ルベキナリ今ヤ幸ニ氣運
 少シク牧蓄事業ニ向ヒ之レカ注意ヲ施シ之レガ獎勵ヲ努ムルモノ
 ナキニアラズト雖モ其奏効未ダ全カラサルハ其因由蓋シ種々アレ
 且要スルニ假令ヒ此業ニ注意スルモノアルモ一ハ往年輕燥投機者
 流ノ行爲ニ倣テ倒産破産セル牧豚一時ノ覆轍ヲ顧慮シ一ハ明治初
 年ノ牛疫慘毒ニ辟易シ因循此業ノ發起ヲ決行シ能ハサルニ似タリ
 嗚呼前者ノ覆轍ヲ顧慮スルハ情ノ當然ナリト雖モ彼ノ牧豚一時ノ
 失敗ノ如キハ素ト牧蓄ハ一ノ着實ニ事業タルヲ知ラサルモノ、一
 時投機ニ惑溺セル自業自得ノ結果ト看過シテ可ナルカ故ニ此レニ

鑑ミ將來ヲ慮ルハ寧ロ杞憂トシテ一笑ニ附スルノミ然レハ獨リ牛
 疫ニ止マラス凡テ畜疫ノ慘毒ニ至テハ牧蓄者ノ時ニ或ハ免カルヘ
 カラサル害毒ニシテ此業ノ進歩ニ大障礙ヲ與ヘシ事例勘シトセ
 我邦人ノ之ヲ顧慮逡巡スルモ深ク咎ムヘカラサルナリ是ニ於テカ
 獸醫ノ必要ヲ生ス嗚呼天則ノ大法ハ畢竟此等障礙ヲ壓倒シ恐ラク
 ハ早晚再ヒ此業ヲ企圖スルモノ續々輩出スルノ期アラゾカナレハ
 自然ニ放任スルハ策ノ得タルモノニアラズ宜シク人爲ノ制裁ヲ以
 テ此等障礙ヲ左右シ早ク此期ニ達セサルヘカラス故ニ方今牧蓄事
 業ヲ振興セント欲セハ須ラク常ニ家畜ニ親灸シテ其化育蕃殖等ノ
 原則ヨリ飼養管理ノ方法等ニ至ルマテ或ハ一朝蓄疫等ノ侵襲アル
 ニ當テハ之レカ藩垣トナリ家畜ノ生命ヲ保護シ隨テ財產ヲ保固ス
 ルノ任ニ堪ユル學識經驗ニ富ムモノ則チ純良獸醫タルモノハ身自
 ラ牧蓄ノ業ニ當リ純然牧蓄者ノ模範トナリ世人ヲシテ此業ノ有益

ニメ失敗ナキヲ知ラシノサルヘカラス曩キノ所謂自働的ノ作力ト
 ハ是レ之レノ謂ヒナリ而シテ事實果シテ然ルヲ得バ有志者ノ因循
 スルモノ奮然蹶起皆此行爲ニ倣ヒ庶幾クハ此業ノ振起期シテ俟ッ
 ヘキ歟將タ又身自ラ之ヲ爲スノ資力ニ乏シキ獸醫ハ有志者ノ幾分
 ニテモ己ニ萌起セル心術ニ投シ能ク之ヲ輔佐翼贊シ一方ニ在テハ
 有志者タル者能ク獸醫ヲ利用スルノ道ヲ得バ兩者相待テ本然ノ機
 能ヲ完フスヘキナリ豈思ハサルヘカシヤ
 蓋シ上文縷述スル所ハ方今ノ事態ニ最モ剴切ナリト自信スル家畜
 衛生ノ点ヲ主トシテ獸醫ノ責任ヲ判明セシモノナリ世人或ハ云フ
 獸醫トハ單ニ家畜ノ治病師ナリ夫レ然リ然ラバ素ト家畜ノ價格貴
 カラザルニ何ヲ以テ獸醫ノ價値アリトセシヤト嗚呼是レ思ハサル
 ノ甚シキモノ蓋シ獸醫ノ本領ヲ辨知セサル嗚呼ノ陋見ナリト謂フ
 ヘシ固ヨリ獸醫ハ家畜ノ生命ヲ司トルモノナレハ其疾病ヲ醫治セ

サルヘカラサルハ勿論ナレトモ區々治病ノ任ヲ全フスルハ蓋々末技ニ屬スルノミ其他人文漸ク進メテ乳肉ノ需要多々益々増加スルニ至レハ利害ノ及フ所愈々緊急此時ニ當リ衛生上人蓄相關ノ理ヲ講究スルハ獸醫ノ責任タリ交渉漸ク繁ク人事多端ナルノ日ニ當リテハ獸醫律ノ必須生セサルヘカラス而シテ之レガ運行ヲ完カラシムルノ如何ハ獸醫學ノ識見ニ由ラサルベカラス然ラバ是亦獸醫ノ責任タリ豈何ソゾ獸醫ノ價值ナシト云フヲ得ンヤ今ヤ諸氏等積年ノ苦學其効ヲ奏シ此盛典ヲ舉グルヲ得殊ニ知事閣下並ニ課長閣下ノ貴臨ヲ辱フシ剩ヘ優渥懇篤ノ高論ニ與カル諸氏ハ勿論余等陶冶ノ任ニ在ルモノモ亦何ソノ幸福カ之レニ如カン然レモ諸氏這回ノ卒業ヲ以テ足レリトセス益々進メテ學理ノ滋奧ヲ究メ其責任ヲ成就シテ自他公共ノ利源ヲ開發セラレシコト翹望ニ堪エサルナリ聊カ蕪辭ヲ呈シテ祝詞ニ代フト云爾

○共進會及品評會成績

廿二年中縣下ニ於テ開設セシ共進會品評會及類似ノ會ハ公立民設合セテ九會ニシテ其成績左ノ如シ
 名古屋米商會所仲買人玄米品評會ハ名古屋米商會所仲買人一同ノ會主ニシテ一月廿五日ヨリ二月十日マテ十七日間愛知縣博物館内ニ開設セリ出品ハ玄米三俵ニテ出品人員百六十七名点数二百二十点ナリ而シテ褒賞授與ノ人員ハ四十二人内一等壹人二等二人三等四人四等十三人五等廿二人ニテ又來觀人員ハ四千六百八十五人ナリ
 西加茂郡舉母ニ於テ二月十二日ヨリ十四日マテ三日間同郡第八回種子交換會ヲ開設セリ出品種類ハ稻綿雜穀雜種子等ニシテ出品人員七百廿二人点数ハ千百九十六点ニシテ褒賞授與ノ人員ハ六十七人内(一等ヨリ四等マテハ欠)五等一人六等十二人七等五十四人又來

觀人員ハ二千五百五十一人ナリ
 海東西郡春季種子交換會ヲ開設シタリ出品種類ハ米麥綿藍其他雜
 穀及苗類ニシテ出品人員ハ二百三十人点数三百四十九点ナリ又褒
 賞授與ノ人員ハ三十七人内一等一人二等二人三等三人四等五人五
 等十八六等十六人ニシテ來觀人員ハ二百廿八ナリ
 丹羽葉栗中島海東海西五郡聯合織物共進會ハ中島郡一宮村ニ於テ
 七月三日ヨリ十二日マテ十日間開設セリ出品ハ絹織絹綿交織佐織
 綿麻布等ニシテ出品人員ハ五百十三人反數ハ八百五十壹反ナリ又
 褒賞授與人員ハ一等二人二等六人三等拾二人四等十九人五等三拾
 九人ニシテ來觀人員ハ千四百四十八人ナリ
 東加茂郡繭生糸共進會ハ同郡足助村ニ於テ七月十七日ヨリ廿一日
 マテ五日間開設セリ出品人員ハ七十一人点数ハ七十一人点褒賞授與
 人員ハ一等一人二等二人三等三人四等六人五等十一人ニシテ來觀

人員ハ七百八ナリ

名古屋區東春日井郡西春日井郡聯合繭生絲品評會ハ愛知縣博物館
 内ニ於テ八月一日ヨリ十四日迄十四日間開設セリ出品人員ハ二百
 廿八人点数ハ二百五十八点褒賞授與人員ハ一等二人二等二人三等五
 人四等十一人五等十七人ニシテ來觀人員ハ七百七十四人ナリ
 知多郡農産物品評會ハ同郡半田村ニ於テ九月一日ヨリ七日マテ七
 日間開設セリ出品種類ハ繭綿米大麥小麥大豆ニシテ出品人員ハ千
 六十二人点数ハ千九十三点ナリ又褒賞授與ノ人員ハ一等六人二等
 八人三等廿三人四等廿七人五等三十九人ニシテ來觀人員ハ三千人
 ナリ
 丹羽葉栗二郡繭生絲綿米共進會ハ丹羽郡小折村ニ於テ九月六日ヨ
 リ十五日マテ十日間開設セリ出品人員ハ五百十六人点数ハ五百二
 十点ナリ又褒賞授與ノ人員ハ一等四人二等六人三等十三人四等廿

八五等五十九人ニシテ來觀人員ハ七百七十八人ナリ
 八名郡農産物品評會ハ同郡玉川村ニ於テ九月七八兩日間開設セリ
 出品種類ハ大麥裸麥小麥繭藍葉葉烟草ニシテ出品人員ハ百廿八人
 數ハ百三十六点ナリ又褒賞授與ノ人員ハ一等二人二等五人三等十
 一人四等廿八人五等十九人ニシテ來觀人員ハ百四十八人ナリ

○蠶絲業景况

縣下蠶絲業ノ景况ハ年々進歩ノ姿ト云フヘシ今茲ニ廿二年ノ産額
 ナ掲シレハ春蠶ノ收繭ハ六千九百三十二石九斗四升此價額金拾八
 万四千二百貳圓五拾五錢又夏蠶ノ收繭ハ三千九百七十四石二斗七
 升此價額金七万八千五百六十圓ナリ又秋蠶ノ收繭ハ三千八百三十
 四石二斗六升此價額金三万七千八百八十圓九十三錢ニシテ各郡區内
 組合人員桑園反別及繭ノ産額等ハ左表ノ如シ

○明治廿二年蠶種検査成績

明治十九年農商務省令第九号ニ據リ廿二年九月蠶種検査所チ名古
 屋區及ヒ寶飯郡御油村ノ二ヶ所ニ置キ蠶種ノ検査ヲ爲シタリ其蠶
 種ノ數左表ノ如シ

種類	原種		種製原種		種計
	受人員	良種應	良種應	良種計	
春蠶種	二六四	六七五	九四	一四四九	二、二二四
夏蠶種	一一〇	九六	三〇	二六三	三五九
秋蠶種	三〇	一六	一三	三三	四九
合計	四二四	七八七	一三七	一七四五	二、五三二

○力農褒賞

廿一年度ニ於テ農事獎勵ノ爲メ縣下各郡ノ力農廿八名ヲ撰拔シ褒
 賞ヲ與ヘタル其金員人名左ノ如シ

- 金五圓 海東郡百町村 吉川清七
- 金五圓 幡豆郡木田村 齊藤久之丞

金三圓	愛知郡岩作村 林利右衛門	金三圓	西春日井郡鹿田村 平手藤十郎
金三圓	丹羽郡岩倉羽根村 水越理三郎	金三圓	碧海郡野田村 山本實藏
金三圓	幡豆郡志籠谷村 石川勝藏	金三圓	額田郡大平村 柴田宗十郎
金三圓	寶飯郡久保村 富田次右衛門	金三圓	八名郡萩平村 鈴木新助
金貳圓	愛知郡則武村 木村儀左工門	金貳圓	東春日井郡南外山村 鈴木勇右工門
金貳圓	全郡關田村 堀尾丑之助	金貳圓	全郡印場村 淺見政助
金貳圓	西春日井郡鍛冶夕一色村 井上久三郎	金貳圓	業栗郡内割田村 江崎勝右工門
金貳圓	中島郡福森村 日置甚右工門	金貳圓	海東郡富永村 安井甚右工門
金貳圓	全郡新居屋村 山中伍左工門	金貳圓	知多郡内海村 鈴木七左工門

金貳圓	全郡白澤村 竹内林左工門	金貳圓	幡豆郡鳥羽村 倉地勝五郎
金貳圓	額田郡柱村 野本増吉	金貳圓	全郡深溝村 本田峰助
金貳圓	寶飯郡津田村 大林歌三郎	金貳圓	八名郡井代村 林真古太郎
金貳圓	北設樂郡大野瀬村 小木曾一家	金貳圓	全郡上津具村 村松與三
金貳圓	全郡小田木村 青木治郎吉		

○明治廿二年蠶絲業組合人員及桑園反別表

東春日井郡	愛知郡	名古屋	市
一五六三	四〇一	九五三	九五三
六二二九	三二八〇	三〇五八	三〇五八

南 北 東 西 額 播 碧 知 海 中 葉 丹 西	設 設 加 加 田 豆 海 多 東 島 栗 羽 春	樂 樂 茂 茂 郡 郡 郡 郡 郡 郡 郡 郡 郡	郡 郡 郡 郡 郡 郡 郡 郡 郡 郡 郡 郡 郡	一,二〇〇 一,三五〇 一,二三三 一,四七八 二七九 一七〇 一三三 四三三 一六六 二二一 二八九八 五,四九八 四〇〇	五八五 五六五 五四五 一〇〇五 一四五〇 三五〇 一三二〇 一二五〇 七六四 一八六六 一四七五 五八七 一五〇〇
---	---	---	---	--	--

寶 澁 八 合	飯 美 名 計	郡 郡 郡 郡	一,六五二 一,四二一 一,〇三七 二,三四七八	一四九九 一二八五 九一五三 一八五五六
------------------	------------------	------------------	-----------------------------------	-------------------------------

明治二十二年春蠶種掃立數及繭產額價額調表

市郡名	掃立蠶種數	春繭產額	同上價額	繭		
				上繭	玉繭	屑繭
名古屋市	一二五枚	九八,六五 <small>外</small>	二,五五九,六六 <small>錢</small>	八一,一〇 <small>外</small>	一〇,三五 <small>外</small>	七,二〇 <small>外</small>
愛知郡	八〇	七六,三〇	二,五七五,〇〇	六六,〇〇	六,三〇	四,〇〇
東春日井郡	五九五	四三九,一一	一一,八六六,七八	三五一,一二	四六,五七	四一,四二
西春日井郡	一〇〇	一〇〇,〇〇	二,五〇〇,〇〇	八二,〇〇	一〇,五〇	七,五〇
丹羽郡	三,三〇〇	二,七二一,〇〇	七九,二〇,〇〇	一三九七,八八	二五〇,二〇	七二,九二
粟郡	九四一	四四七,一五	一二,七七五,〇〇	三八〇,〇八	四四,七一	二二,三六

中島郡	二六	二二,一〇	五六四,九八	一八,二〇	三,一二	七八
海西郡	六一	五〇,二〇	一,三五五,五四	四〇,三四	六,三〇	三,五六
知多郡	二二七	二一五,六八	五六九九,三一	一七七,七〇	二二,四六	一五,五二
碧海郡	九四	七〇,三〇	一,七四三,〇二	五五,二五	一〇,〇五	五,〇〇
幡豆郡	一一〇	一〇〇,〇〇	二,五〇〇,〇〇	七〇,〇〇	一五,〇〇	一五,〇〇
額田郡	一四五	九七,五六	二,三三七,四一	八一,二九	一一,三九	四,八八
西加茂郡	五六二	五三三,六〇	一一,五二〇,〇〇	三六一,八四	一四四,二六	二七,五〇
東加茂郡	一五八	一一二,九四	二,四六八,七二	九六,五三	一四,三八	一一,〇三
北設樂郡	二一〇	一二五,三〇	二,六三二,三〇	九七,〇一	一二,五三	一五,七六
南設樂郡	二〇二	一〇三,〇八	三,一〇六,〇八	七八,三八	一七,八三	六,八七
寶飯郡	九一〇	六三五,九三	一八,八五七,〇八	五三四,四七	五九,八七	四一,五九
渥美郡	四六六	三〇六,九八	八,一五三,六二	二五二,二九	三五,九五	一八,七四

八名郡	六六〇	六六七,〇六	一〇,七六八,〇五	五七三,七三	六五,五八	二七,七五
合計	八九七二	六,九三二,九四	一八四,二〇二,五五	五,七九五,二二	七八七,三五	三五〇,三八

明治廿二年夏繭產額價額調表

市郡名	繭石數	同上價格	內譯上繭	玉繭	屑繭
名古屋市	三六〇八 ^外	五二七,四五 ^錢	二六,三四 ^升	五,四九 ^升	四,二五 ^升
愛知郡	一,八五〇	三七五,〇〇	一四,五〇	二,一七	一,八三
東春日井郡	一八,二九五	三,五二七,一五	一四三,〇〇	二七,四〇	一二,五五
西春日井郡	四,〇〇〇	七三六,〇〇	三五,〇〇	三,〇〇	二,〇〇
丹羽郡	二二四,〇〇〇	五,三二〇,〇〇	一,五二〇,九六	六七二,〇〇	四七,〇四
葉栗郡	四五,〇〇〇	二,二五〇,〇〇	三八四,二〇	四一,二〇	二四,六〇
中島郡	四三二	一〇〇,一五	三,五五	五八	一九
海東郡	一,三五二	一六二,五四	一〇,七五	一九一	八六

知多郡	九七七	一四九、一八	七、七一	一、三四	九二
碧海郡	一、〇〇三	一三三、九〇	七、一〇	二、〇〇	九三
豆郡	一、九五〇	三五、〇〇	一五、三〇	二、五〇	一、七〇
田郡	二、六〇九	五七三、九八	一九、五七	四、五七	一九五
西加茂郡	四七、一六〇	七、八五二、〇〇	三四四、一〇	一六四、六四	四、八六
東加茂郡	一二、三一	二、〇六八、八〇	九一、一六	二二、〇七	九、八八
北設樂郡	五、三二四	一、二二四、二九	三七、一八	八、七五	七、三一
南設樂郡	八、二四五	一、二八六、七〇	六〇、六七	一三、八三	七、九五
寶飯郡	六、五〇〇	七八〇、〇〇	四九、二〇	八、九五	六、八五
渥美郡	三、五〇〇	一、四九三、四〇	二七、三〇	五、二〇	二、〇〇
八名郡	九、二九一	一、六四八、四六	七一、五〇	一四、九二	六、四九
合計	三九七、四二七	七八、五六〇〇	二、八六九、〇九	一、〇〇二、五二	一四四、六六

○明治廿二年秋繭產額價額調表

市郡名	石	數	價	額	內譯	上繭	玉	繭	層	繭
名古屋市	四五六	升	九九、七六	錢	三、二九	外	六八	外	五九	外
愛知郡	七四〇		一三五、〇〇		五、九八		八一		六一	
東春日井郡	三、五七五		六六一、七八		二七、五八		四、三五		三、八二	
西春日井郡										
丹羽郡	二、三〇〇		五、四六〇、〇〇		一八四、〇〇		四、〇〇		六、〇〇	
栗原郡	二、四、五〇〇		五、五一二、五〇		二二一、五〇		一九、五〇		一四、〇〇	
中島郡										
海東郡	四二九		六四、七三		三、〇六		六五		五八	
知多郡	三、八五〇		七三七、〇〇		三一、一九		四、二三		三、〇八	
碧海郡	二〇〇		三三、〇〇		一、六〇		三〇		一〇	

幡豆郡	五五〇	一二一、〇〇	四、一五	八三	五二
額田郡	一、二〇九	二七八、〇七	八八、〇	二、一四	一、一五
西加茂郡	三〇、八二〇	六、四七二、二〇	二五三、二八	四一、六〇	一三、三三
東加茂郡	九、八五五	一、三三八、七二	七一、七〇	一七、八三	九、〇二
北設樂郡	二一、一四〇	五、二八五、〇〇	一二九、五六	五〇、三四	三一、五〇
南設樂郡	七八、五三一	一、八三三、〇〇	五五、〇〇	一五、八〇	七、七三
寶飯郡	三五、〇〇〇	六、八〇〇、〇〇	二七二、四七	四四、三五	三三、二八
渥美郡	一一、〇〇〇	一、八五三、〇〇	一〇〇、〇〇	六、五〇	三、五〇
八名郡	九、二四九	一、一六一、一八	八九、九三	一、九五	六一
合計	三八三、四二六	三七、八〇、九三	一、四五三、〇九	二五一、八六	一二九、四一

明治二十三年六月廿五日出版

愛知縣

終

